

(注)「コモロ連合月報」は、新聞報道等をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にコモロ政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意をお願いします。なお、各記事冒頭の日付は、報道された日付です。

コモロ連合月報（2026年7月）

《主な出来事》

【内政】

- **8日** (La Gazette) 6日、独立51周年式典が開催され、アザリ大統領が演説にて、新型コロナウイルス感染症、サイクロン・ケネス、国際紛争といった相次ぐ危機により、「コモロ新興計画 (PCE)」の進捗が遅れていることを認めつつも、コモロを新興国へと導くという野心を改めて表明した。

【外政】

- **2日** (Al Fajr) 6月30日、ムバエ外務・国際協力大臣は、カタールを訪問し、スルタン・ビン・サード・アル・ムライヒ外務大臣と会談し、両国の友好・協力関係の強化について協議した。
- **9日** (Al-Watwan) コモロのイコニ市において、国内2校目となるロシア語学校の開校式が行われ、ロシアのアレクセイ・ブリャク臨時代理大使が出席した。本取り組みは、コモロの若者に対し、ロシア語学習を通じて教育・留学・国際交流の機会を提供し、人材育成につなげることを目的としている。ロシア・コモロ交流団体である COMRUSS と UJM 協会が連携して実施し、ロシア語教育の普及を通じて、両国の友好関係および教育・文化・学術分野における交流強化を図るもの。開校式に合わせて両団体間でパートナーシップ協定が締結され、今後の協力推進が確認された。

【社会】

- **25日** (2424. mg) コモロの歴史的メディナ6か所（グランドコモロ4、アンジュアン2）がユネスコ世界遺産に登録。スワヒリ建築と旧スルタン都市の証で、防壁や宮殿、モスク、迷路状路地が残る。文化相は「到達点でなく出発点。今も祈りや商いが息づく生きた都市」と強調。初の世界遺産登録で保全強化と国際支援に期待が高まる。

1 内政

- **8日** (La Gazette) 6日、独立51周年式典が開催され、アザリ大統領が演説にて、新型コロナウイルス感染症、サイクロン・ケネス、国際紛争といった相次ぐ危機により、「コモロ新興計画 (PCE)」の進捗が遅れていることを認めつつも、コモロを新興国へと導くという野心を改めて表明した。
<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/51-ans-dind%C3%A9pendance-le-pays-c%C3%A9l%C3%A8bre-lunit%C3%A9-dans-une-explosion-de-couleurs-et-de-ferveur-.html>
- **24日** (RFI) コモロで、大統領の子息で政府事務総長のヌール・エル・ファト・アザリ氏が政権運営を妨げているとして、14人の閣僚が大統領に極秘書簡を送ったとの元次官ハフィ氏の主張が波紋を広げている。政府は記者会見で全面否定し、書簡公開を要求、攪乱行為と非難し法的措置も示唆。野党は政権中枢の深刻な不協和音の表れだと批判。
<https://www.rfi.fr/fr/afrique/20260724-comores-le-sommet-de-l-%C3%A9tat-agit%C3%A9-par-une-pol%C3%A9mique-mettant-en-cause-le-fils-du-pr%C3%A9sident>

2 外政

- 2日 (Al Fajr) 6月30日、ムバエ外務・国際協力大臣は、カタールを訪問し、スルタン・ビン・サード・アル・ムライヒ外務大臣と会談し、両国の友好・協力関係の強化について協議した。
- 9日 (Al-Watwan) コモロのイコニ市において、国内2校目となるロシア語学校の開校式が行われ、ロシアのアレクセイ・ブリャク臨時代理大使が出席した。本取り組みは、コモロの若者に対し、ロシア語学習を通じて教育・留学・国際交流の機会を提供し、人材育成につなげることを目的としている。ロシア・コモロ交流団体であるCOMRUSSとUJM協会が連携して実施し、ロシア語教育の普及を通じて、両国の友好関係および教育・文化・学術分野における交流強化を図るもの。開校式に合わせて両団体間でパートナーシップ協定が締結され、今後の協力推進が確認された。
- 10日 (Al-Watan) コモロ独立51周年を迎えた6日、サウジアラビア、UAE、モロッコ、エジプト、モーリタニアの首脳が、アザリ・アスマニ大統領とコモロ国民に祝賀メッセージを送った。各国は大統領の健康と国民の発展、繁栄を祈るとともに、コモロとの二国間協力や友好関係を一層強化する意向を表明。エジプトは大統領府秘書官をカイロのコモロ大使館に派遣し、直接祝意を伝えた。モロッコとモーリタニアも、両国民の利益にかなう持続的なパートナーシップの発展に強い意欲を示した。<https://alwatwan.net/politique/6-juillet/f%C3%AAtte-de-l%E2%80%99ind%C3%A9pendance-ides-messages-de-f%C3%A9licitation-adress%C3%A9s-au-chef-de-l%E2%80%99etat.html>
- 15日 (Al-watwan) シェイク・ハマド・ビン・ハリーファ・アール＝サーニー前カタール首長が逝去したことを受け、アザリ大統領は弔問のためにカタールを訪問。タミーム・ビン・ハマドアール＝サーニー首長と会談した。
- 25日 (大統領府FB) ユネスコ世界遺産委員会が韓国釜山で開催された中、アザリ大統領は同地で韓国文化財庁K-Heritage展を視察し、同庁総裁とも会談。韓国側より、コモロの世界遺産登録6件を祝福され、無形文化財等の拡張や価値向上で韓国の支援・作業部会設置に大統領側は合意。廃棄物管理等の協力や遺産保全強化も確認し、相互訪問の提案もあった。
<https://www.facebook.com/100069164651068/posts/1361699252812217/?rdid=CzLarcqTuUTmQC33#>

3 経済

- 16日 (Al Fajr) 14日、エネルギー・水・炭化水素大臣は、国際イスラム貿易金融公社 (ITFC) のコンサルタントと会談した。双方は、コモロにおける炭化水素の貯蔵能力強化および国家備蓄の管理支援に向けた提携の可能性について意見交換を行った。この取り組みは、同国のエネルギー主権の持続的な確保に寄与するものと見られる。

4 社会

- 13日 (Al Watwan) コモロの航空会社ロイヤル・エアは、コモロ・マダガスカル線の就航に必要な技術・行政手続きを終え、マダガスカル当局の認可を待っている。計画路線はアンジュアン島・マジ

ュンガ、モロニ・アンタナナリボ、モロニ・マジュンガで、週9便を想定。ATR72-600やCRJ-200などを投入し、アンジュアン島・マジュンガ線の往復運賃は20万3,000コモロ・フランを予定している。

<https://alwatwan.net/societe/liaisons-a%C3%A9riennes-comores-madagascar-i-royal-air-pr%C3%A0te-%C3%A0-lancer-les-vols.html>

- **14日** (La Gazette) エル・マールーフ病院における契約職員の正規採用拒否により、患者ケアの質が徐々に低下している。例えば産科では、スタッフが半減しており、残された医療従事者に過重な業務負担と強いプレッシャーがかかっている。このままでは、同部門は最終的に緊急処置のみに活動を限定せざるを得なくなる見込み。
- **25日** (2424. mg) コモロの歴史的メディナ6か所（グランドコモロ4、アンジュアン2）がユネスコ世界遺産に登録。スワヒリ建築と旧スルタン都市の証で、防壁や宮殿、モスク、迷路状路地が残る。文化相は「到達点でなく出発点。今も祈りや商いが息づく生きた都市」と強調。初の世界遺産登録で保全強化と国際支援に期待が高まる。
<https://2424.mg/culture-six-medinas-seculaires-des-comores-inscrites-au-patrimoine-mondial-de-lunesco/>
- **28日** (マダガスカル2424. mg) コモロの首都モロニは慢性的な水危機に直面。給水は極めて断続的で、地区によっては15～20日に1時間のみ。老朽化した配水網、人口増で不足するインフラ、電力供給の制約が重なり、安定供給が困難となっている。<https://www.facebook.com/share/1EvSCw72Ej/>
- **31日** (La Gazette) 30日、コモロとマダガスカルの当局は、マダガスカル航空の就航記念式典を執り行った。週3便が運航されるこの路線は、コモロおよびマダガスカルの旅行者にとって、長くて費用のかかる乗り継ぎを必要としないため、大きな負担軽減となる。この移動手段の拡充に加え、この運航再開は、二国間協力の強化の始まりをも示している。

(了)